



まだ見ぬ、食の力を。

ニッスイグループは、<sup>みらい</sup>未来を支える子どもたちの<sup>こ</sup>発見や体験を<sup>はっけん</sup>応援しています



持続可能な水産資源から世界の人々に健康をお届けすることは、海と海の生き物たちに支えられて事業を営むニッスイの果たすべき役割のひとつです。水産物をはじめとする世界中の資源からの発見や気づきは、多様な価値として、AIやIoT技術を活用した次世代の養殖技術を生み出しました。豊かな海と、その資源を未来の子どもたちに伝えるため海洋プラスチックやフードロスなどの社会課題の解決にも取り組んでいます。海が、いつまでも子どもたちの体と心を育む存在であってほしい ————それが、ニッスイの変わらぬ思いです。

株式会社ニッスイ



FSC® 認証紙と植物油インクを採用しています。非売品・無断転載を禁じます。

第42回「海とさかな」自由研究・作品コンクール 応募ガイド

発行日 令和5年5月発行  
監修 「海とさかな」自由研究・作品コンクール事務局  
協賛 株式会社ニッスイ  
発行所 朝日学生新聞社 〒104-8433東京都中央区築地5-3-2



「海とさかな」自由研究・作品コンクール

主催／朝日新聞社、朝日学生新聞社  
後援／農林水産省、文部科学省、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人水産研究・教育機構、公益財団法人海外子女教育振興財団、公益社団法人日本水産学会  
協力／公益社団法人日本動物園水族館協会  
協賛／株式会社ニッスイ

<https://www.umitosakana.com>

# 目次

1P	賞の紹介	9P	【創作部門】絵画 作品紹介
2-3P	応募のきまり	10P	【創作部門】作文 作品紹介
4P	応募の流れ	11P	【創作部門】工作 作品紹介
5-6P	【研究部門】観察図 作品紹介	12P	「海とさかな」自由研究・作品コンクールでSDGsを学ぼう!
7-8P	【研究部門】自由研究 作品紹介	13-14P	海と魚を守るニッスイグループの取り組み

# 賞の紹介

## 最優秀賞(研究部門・創作部門)

農林水産大臣賞／文部科学大臣賞／海洋研究開発機構理事長賞／  
水産研究・教育機構理事長賞／日本水産学会会長賞／朝日新聞社賞／  
朝日学生新聞社賞／株式会社ニッスイ賞

計16点

- 上記の各最優秀賞受賞作品に対して賞状・盾・副賞として図書カード(5万円分)を贈呈します。
- 黒瀬ぶり1匹を贈呈します。

## 学校・団体協力賞

学校・団体応募にて登録いただいた中から、50校(団体)程度に図書カード2万円分を贈呈いたします。

## 優秀賞

「研究部門」「創作部門」各賞の他、最終審査会まで残った作品の中から、惜しくも最優秀賞に選ばれなかった作品には優秀賞として、賞状と図書カード(5千円分)を贈呈します。

海とさかな  
博士号認定証

応募者全員に名前を入れた

「海とさかな博士号認定証」と参加賞を贈呈



# 応募のきまり

## テーマ 『海とさかなとわたしたち』

わたしたちが毎日食べている魚。たくさんのいのちを育てている海。海も魚も、わたしたちの暮らしと深くつながっています。なぜ? どうして? と、海や魚のふしぎやその美しさに目をむけて、自由研究、観察図、作文、工作、絵画で「表現」してみましょう。

## 審査員

猿渡 敏郎	東京大学大気海洋研究所 助教(審査委員長)	神保 充	日本水産学会・北里大学海洋生命科学部 教授
長谷川裕康	農林水産省 水産庁 増殖推進部 研究指導課長	森田 和良	文京学院大学 人間学部 児童発達学科 特任教授
有本 淳	文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官	高山 裕喜	朝日新聞社 科学みらい部長
亀井 雅彦	海洋研究開発機構 海洋科学技術戦略部長	清田 哲	朝日学生新聞社 編集部長
桑原 隆治	水産研究・教育機構 経営企画部 次長	吉田 桂子	株式会社ニッスイ コーポレートコミュニケーション部長

## 個人応募 / 学校・団体応募

以下の2部門5分野から選んでください。下記の規定にそって作品をまとめてください。

### 研究部門

**観察図分野**  
A3判(29.7cm×42cm)か、四つ切り(38cm×54cm)サイズの画用紙を使用。下記の4項目を記入する。  
①テーマ ②動機(なぜ、この題材をえらんだか) ③観察図を描いて分かったこと ④感想など

**自由研究分野**  
スケッチブックなどの市販のものや、オリジナルブック(画用紙などをとじたもの)に、文章、絵、写真などを見やすくまとめる。  
※サイズは、スケッチブック等の場合、B4判サイズ以内で、枚数は12枚(24ページ)以内(表紙・参考資料を含む)。  
※資料を添付する場合は、三辺の合計が100cm以内、重さ3キロ以内。  
※資料などで、貴重なものや壊れやすいもの場合は送付せず、写真などで代用する。

### 創作部門

**絵画分野**  
A3判(29.7cm×42cm)、または、四つ切り(38cm×54cm)サイズの画用紙1枚(八つ切りなど小さい分には応募可能)。  
※「絵画」は写真や図鑑、インターネットの画像をそのまま描くのではなく、実際に見た光景や想像した世界を描くこと。

**作文分野**  
(創作文も含まれます)  
400字づつ原稿用紙5枚以内。薄い文字が無いように、丁寧に書く。

**工作分野**  
(絵本も含まれます)  
工作作品:タテ+ヨコ+高さの三辺の合計が100cm以内。重さが3キロ以内。  
絵本作品:B4判(25.7cm×36.4cm)サイズ以内のスケッチブックなどの市販のものや、オリジナルブック(画用紙などをとじたもの)を使用し、10枚(20ページ)以内にまとめる。  
※壊れやすい素材や液体あるいは液体状の素材を作品に使わないでください。

個人応募は各家庭からの応募です。学校や団体からの応募は1名であっても学校・団体応募となります

応募資格  
小学生

## 応募について

### ■応募申請登録期間／2023年6月1日(木)～9月29日(金)

※「海とさかな」自由研究・作品コンクールのHP (<https://www.umitosakana.com/>) から登録し、応募番号が記載された「応募カード」を取得してください。  
※応募者名は「海とさかな博士号認定証」に印刷しますので、お間違えのないように入力してください。

### ■作品応募受付期間／2023年6月1日(木)～9月29日(金) ※当日消印有効

### ■作品送付先／「海とさかな」自由研究・作品コンクール係

〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富236-1 作品発送時の送料は出品者のご負担となります。

作品の送付や応募方法など、問い合わせはすべて  
**guide@umitosakana.com**までお願いします。

#### 注意事項

##### ■<作品の返却>について

入賞作品をのぞき作品は返却しません。写真やコピーで保存することをお勧めします。作品を手元に置いておきたい場合はオンライン応募(個人応募)をお選びください。

##### ■著作権(著作権など)、肖像権

入賞作品の著作権(著作権など)は主催者・協賛者に帰属します。応募ガイド、株式会社ニッスイ広報誌などに2次利用する場合がございます。

##### ■<作品名>について

作品には必ず題名(20字以内/文字数厳守)をつけてください。応募申請登録時に作品名が不明(または未定)の場合、作品名を「海とさかな」と記入してください。

##### ■<応募カード>について

作品には必ず応募登録番号が記載された「応募カード」をつけて提出してください。「応募カード」は、各作品の分かりやすい部分にしっかり貼り付けてください。応募登録番号は応募申請登録をすると発行されます。オンライン応募の場合は応募カードの添付は不要です。

##### ■<肖像権>について

出張授業やワークショップ、表彰式の様子を、朝日小学生新聞やコンクールホームページ、株式会社ニッスイの広報誌、カレンダー、ウェブサイトなどに掲載する場合がございます。

##### ■<個人情報>について

- 作品の送付に際して、個人情報がわかるような資料などを作品と一緒に送らないでください。
- 入賞作品は公開されます。公開されては困るような内容を作品に掲載しないでください。

##### ■<作品の素材>について

壊れやすい素材や液体あるいは液体状の素材を作品に使わないでください。

##### ■<他の作品コンクールへの出品>について

重複応募を禁じます。重複応募の場合は、入賞を取り消します。

##### ■<出典、引用>について

図鑑や書籍、新聞、ウェブサイトから引用・参考にした場合は、必ず出典を明記してください。

##### ■<漁業権>について

場所によって漁業権が設定されている場合があります。漁業権を侵害しないよう生き物の観察・採取を行ってください。

##### ■<作品の評価など>について

- 参考資料として作品に添付した書籍などのコピーは評価の対象となりません。
- 天然記念物など捕獲が禁止されていたり、法律に触れる行為で入手した魚介類をあつかった自由研究・観察図などは選考対象外とします。

## 入賞発表

2023年11月下旬～12月上旬に、朝日新聞、朝日小学生新聞紙上、および、「海とさかな」自由研究・作品コンクールホームページに掲載(予定)

## 表彰式

2023年12月9日(土)  
オンラインにて開催予定

## 応募の流れ

はじめに  
登録しよう!

### 6月1日(木)から

### 応募申請登録開始!

#### ①まずは検索!

海とさかな

#### ②応募申請登録



①「応募する」から登録をしてください。登録後に「応募カード」が発行されます。登録方法がわからない場合は②「応募の流れ」をご覧ください。

個人応募  
限定



### オンライン応募ができるよ

個人の応募に限り、郵送での応募またはオンラインでの応募を受付いたします。

作品を手元においておきたい場合は、個人応募限定のオンライン応募をお選びください。詳しい応募方法はウェブサイトの「**応募の流れ**」をご覧ください。

※学校や団体からは1名であっても団体応募となるためオンライン応募にはご応募いただけません

団体応募  
限定

応募ガイドブック  
募集ポスター  
専用画用紙を

無料プレゼント!

こちらからお申し込みください。

※数に限りがあるため、配布が終了となる場合がございます。



### 6月1日(木)から

### 作品受付開始!

郵送でも  
宅配便でも  
OK!

「応募カード」を作品に貼り付けて、作品が壊れないように気をつけて応募してね。

●作品送付先 〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富 236-1

「海とさかな」自由研究・作品コンクール係

### 9月29日(金)

### 作品応募締切

締切日に  
遅れない  
ようにね!

当日消印有効

余裕を持って応募しよう

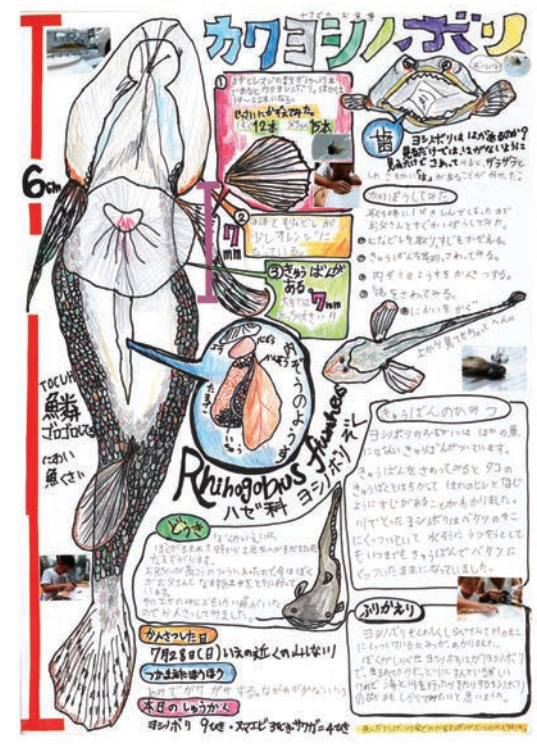


観察図は、さかななどの対象物をまずは中央に大きく描こう。  
 その周りにテーマや動機、描いてわかったことや、観察した感想などをまとめていくことが大切だよ!



かんさつ ず ぶん や  
**観察図分野**

「ナマズのお食事  
 カワヨシノボリ」

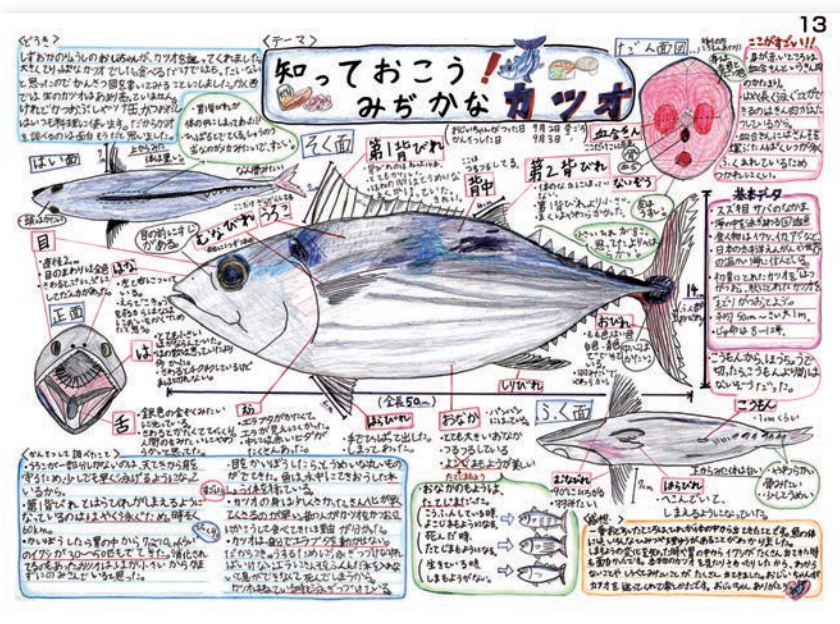


**ここがポイント!**

ナマズのエサであるカワヨシノボリについて、キラキラ光るウロコの様子をカラフルに表現しています。おなかのスケッチもていねいに描いています。

かんさつ ず ぶん や  
**観察図分野**

「知っておこう! みぢかなカツオ」

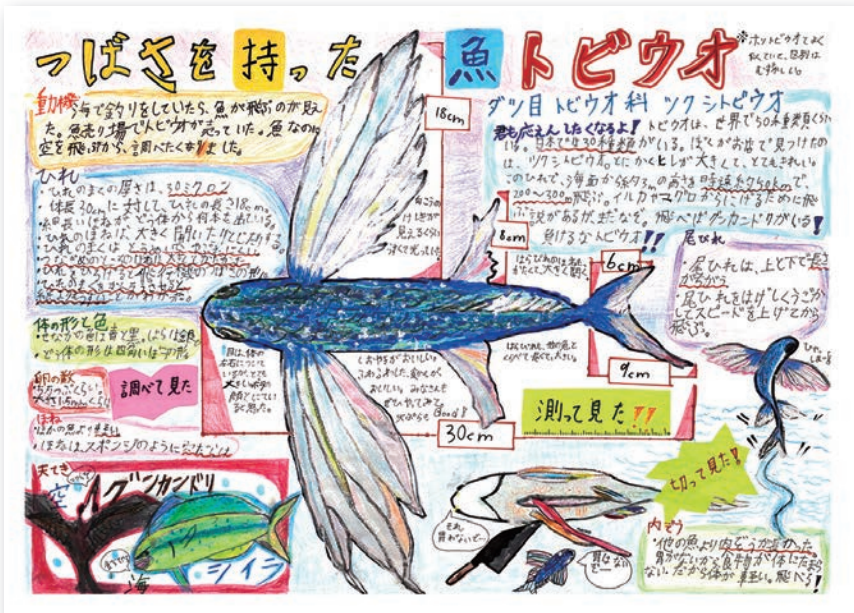


**ここがポイント!**

カツオのことを知らない人が読んでもわかるように、基礎的なデータや調べてわかったことがとても読みやすくレイアウトされています。

かんさつ ず ぶん や  
**観察図分野**

「つばさを持った魚 トビウオ」

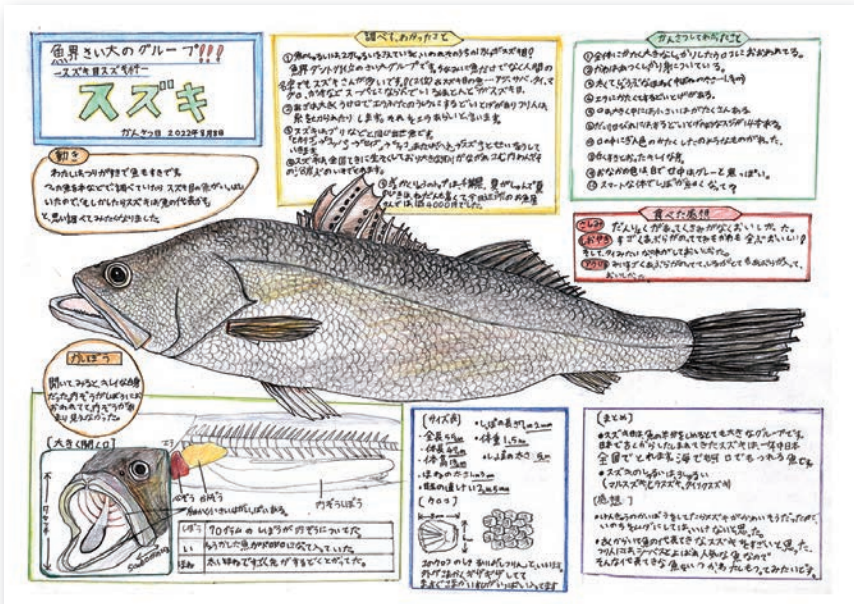


**ここがポイント!**

対象物の魚が中央に大きく鮮やかに描かれていて、とても印象的な作品。ひれの大きさや特徴まで調べて、探求心や好奇心にあふれた作品。

かんさつ ず ぶん や  
**観察図分野**

「魚界さい大のグループ!!!  
 —スズキ目スズキ科—スズキ」



**ここがポイント!**

項目ごとに調べたことがまとめられていて、とても見やすくできています。魚のうろこや細かい色まで丁寧に描かれていて、しっかり取り組んだ様子が伝わってきます。



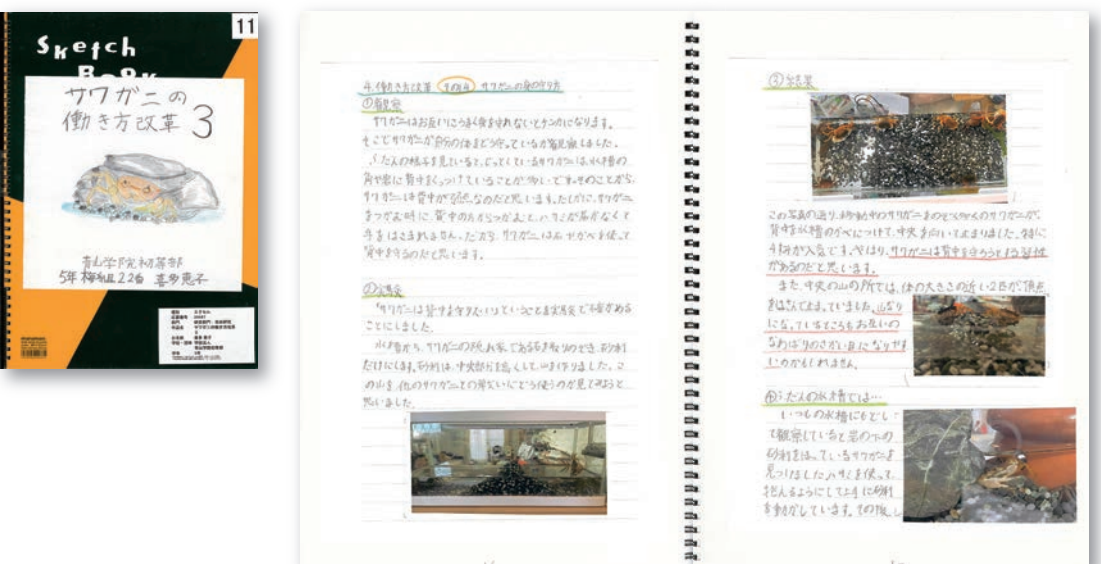
けん きゅう ぶ もん  
研究部門

じ ゆう けん きゅう ぶ ん や  
自由研究分野 「きせい虫といっしょ～ぼくのきせい虫図かん～」



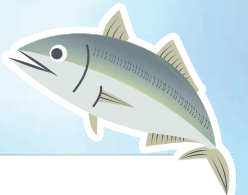
ここがポイント! 関心をもって熱心に研究を進めていく様子が伝わってきます。あくなき探求心、あきらめない気持ち、そして粘り強さにあふれている作品です。

じ ゆう けん きゅう ぶ ん や  
自由研究分野 「サワガニの働き方改革3」



ここがポイント! 素朴な疑問をもとに、調査研究の手順を踏んだ説得力のある作品です。よりよい飼育環境を目指したいというサワガニへの愛情に心を打たれます。

自由研究は、調べるテーマのきっかけを書いてから自分の予想を立て、調べて分かった結果をまとめ、感想を書いていこう。本やウェブサイトなど、何を参考にしたかも書いてね!



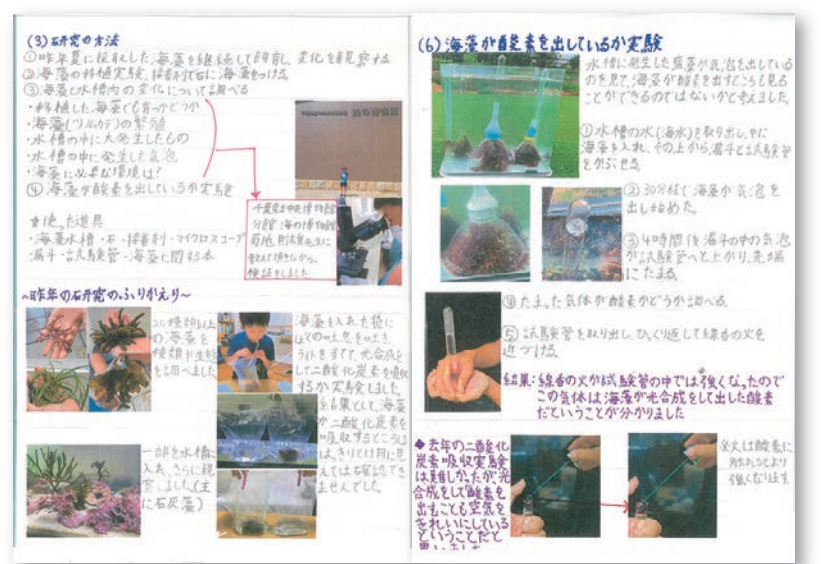
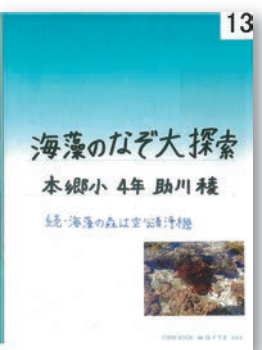
けん きゅう ぶ もん  
研究部門

じ ゆう けん きゅう ぶ ん や  
自由研究分野 「未利用魚～知る・食べる・そして伝える～」



ここがポイント! 調べる動機、そして調べていく過程がとてもわかりやすくまとめられています。また、調べたことを周囲の人に広げようとする姿も評価されました。

じ ゆう けん きゅう ぶ ん や  
自由研究分野 「海藻のなぞ大探索 続・海藻の森は空気清浄機」



ここがポイント! 仮説から検証へと研究の手順をしっかりと踏んでいるだけでなく、海藻を増やしたいという思いから、楽しんで取り組んでいる様子が伝わってきます。

かい が ぶん や  
絵画分野

「わが冒険の始まりだー」



ここがポイント!

タイトルの通り冒険の始まりをうまくとらえ、海に向かう緊張感が伝わってきます。また、立体感のある美しい作品です。

かい が ぶん や  
絵画分野

「紫汁マジック!相手の食欲なくすアメフラシ」



ここがポイント!

独特な色の重ね方が絶妙なバランスをとっています。今にも動き出しそうな、非常にいきいきとした様子が伝わってくる作品です。

さく ぶん ぶん や  
作文分野

「いかがつれたよ」

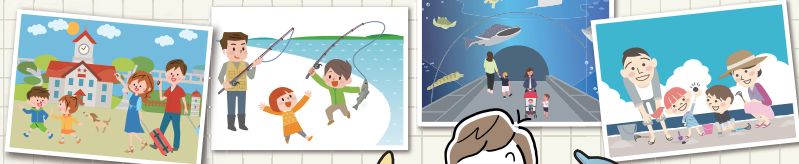
「やったあ」  
ぼくは、おにいちゃんとしてをつないでどびあがつてよろこんだ。ぼくがつつたんだよ。すごーくうれしかった。いかはきらきらしていた。おにいちゃんもすごーくうれしそうだった。  
ぼくたちは、いまさかなつりにむちゅうになっている。きょうは、おとうさんとおにいちゃんとおあさ五じにおきて、みなとにさかなつりにきた。いちばんのねらいは、いかにいかさかなは、たいようがでるころやしむころ、うごきがかっぱつになり、つれやすくなる。そう、ほんにかいてあった。  
いかをいちばんにみつけたのは、おにいちゃん。  
「うわっ。いかがいるよ。」  
と、おおきなこえでいったらにげてしまった。ぼくは、そのこえをきいて、「つれるかも。」とおもいさびきからおおきいエギにかえた。すいめんにてているいわのちかくになが

みた。そうしたら、いかがいっぴきすうつとエギについてきた。それを見て、リールをゆくりとまきながら、エギをうごかしてみた。六びきのいかがおいかけてくる。むねがどきどきした。「せんぶつかまえたい。」とおもった。ぼくは、ちいさいエギにかえた。いかにからだがちいさかったからだ。いかにむねのちかくなげると、いかがあしをうごかしてちかづいてきた。でも、エギに「かいさわつてはなれてしまった。それを四かいぐらいくりかえした。ついに、いかがあしせんぶをつかつて、エギをくるむようにしてエギをだいた。「これはつれるぞ。」つりざおをぎつとうえにひっぱつた。すると、いかにあしにひつかつた。いかは、くろいすみをはいて、ていこうする。ぼくは、いっしょうけんめいリールをまいた。いかにおもった。さおのさきがぎゅつとまがった。それをみていたおとうさんとおにいちゃんがつたいにきた。「ざ

ばつ。」というおとといっしょに、とうとういかをひきあげたのだ。  
いかは、アオリイカだった。アオリイカは、みみがまるくて、からだがまるい。おおきさは21センチ。あしまでいれると30センチもある。ぼくのあしよりもおおきい。いろは、すこしとうめいでくろっぽい。ぼくが、てでつつくといろをかえる。ぼくは、カメレオンみたいだとおもった。あたまはさんかくで、さわってみるとふわふわ。めは、あしのうえについている。そしてあしには、まるいつぶつぶのきゅうばんがついていてぼくのはりついてきた。なんだか、このアオリイカがかわいくおもえてきた。「このまま、ぼくのちかくにおいておきたいな。ペットにしたいくらいだよ。」  
ぼくは、はじめていかをつりあげることができた。このアオリイカは、これからもずっとぼくのころのなかにいるだろうな。

さく ぶん か かつ  
作文の書き方

家族旅行や釣り、親戚のお家の近くの海での経験など、思い出や体験をまとめて、海やさかなへのおもいを書いてみよう。



工作分野

「母川回帰  
ししかげえほん」



ここがポイント!

下調べをしっかりとした上で、想像力をふくらませて作られています。使った素材からも自然のあたたかみを感じるような作品になっています。

工作分野

「カツオの群れと二本釣り漁船」



ここがポイント!

水上でカツオが元気よく跳ねていて躍動感を感じる作品。水上と水中の両方が工夫して作られていて、とても完成度の高い作品です。

「海とさかな」自由研究・作品コンクール

SDGsを学ぼう!

SDGsって、なに?

SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」のことで、すべての国連加盟国が2030年までの達成を目指す、貧困や教育、環境など17分野にわたる目標です。

2015年9月の国連総会で決まった「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」という目標に書かれており、「誰も置き去りにしない」という大きな約束をかかれています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



コンクールを通じてSDGsも学べるよ!

コンクールのテーマ「海とさかなとわたしたち」は、SDGsとも大きなつながりがあるよ。

例えば第38回の作品だと、創作部門で日本水産学会会長賞を受賞した「海のレジ」(絵本)は「ゴミ袋を正しく使い捨てる責任」を訴えていることから「つくる責任つかう責任」(12番)と関係しているね。

研究部門で海洋研究開発機構理事長賞を受賞した「うみとごみのけんきゅう」(自由研究)はまさに「海の豊かさを守ろう」(14番)と同じだね。

他にも、海からの再生可能エネルギーを調べれば「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」(7番)につながるし、海や川に近い街を調べるだけでも「住み続けられるまちづくりを」(11番)のヒントになるよ。作品のテーマや内容を考えるときに「SDGs」も意識してコンクールに応募してみませんか?

日本水産学会会長賞  
【創作部門】 絵本 「海のレジ」



海洋研究開発機構理事長賞  
【研究部門】 自由研究 「うみとごみのけんきゅう」



「キャリア・パスポート」にも役立つコンクールだよ!!

文部科学省は2020年4月から全国の小中高等学校で「キャリア・パスポート」を行っています。

キャリア・パスポートとは、学習や学校生活の目標を自分で決め、達成度を自分で確認する取り組みのことです。

このコンクールは自由研究や作文などの作品づくりを通じて、調べ物をしたり課題を見つけて解決策を考えたりするなど、キャリア・パスポートにもピッタリのコンクールです。作品完成後に応募もできるからさらに一石二鳥だね。

みんなでSDGsだけでなく、キャリア・パスポートにも挑戦してみよう!



# 豊かな海を守り 未来へ引きつぐ

「海とさかな」自由研究・作品コンクールの協賛を第1回開催から続けているニッスイグループは、地球や海の恵みを持続可能なカタチで活用している会社です。たくさんの生き物がすみ続けられる海を守り、今の小学生が大人になったときにも今と変わらない豊かさを保つことが必要だと考えています。

このページでは、海と魚を守るニッスイグループの取り組みの一部を紹介します。



## 商品のプラスチック包装の削減の取り組み

加工食品の包装には、プラスチックが使用されています。プラスチックは食品の品質を保ちおいしく食べるために必要不可欠なものです。その反面、二酸化炭素の排出や使用後には正しく処分しないと海の汚染につながる恐れがあります。

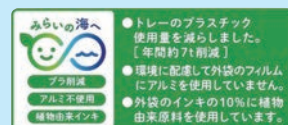
ニッスイでは、冷凍食品や練り製品などに使用するプラスチックについて、こうした環境への影響を少しでも減らす取り組みを行っています。お客様が環境に配慮した商品を選ぶよう、独自のエコマーク「みらいの海へ」を商品パッケージに表示しています。

お客様が環境に配慮した商品を選ぶように、ニッスイの製品に表示しています。

デザインに込めた想い



森・川・海の水の循環の意味を込めて、「∞」(infinity、無限)をモチーフとしました。マークの左側はエコへの取り組み、右側は豊かな海を示しています。環境への配慮が海の豊かさ結びつき、ひいては人々のいきいきした生活と希望ある未来につながっていくことを表現しています。



「トレーのプラスチック使用量を減らしました(従来比〇%削減)」などの具体的な内容とマークを表示

## 森や里山を守ることで海も守る

湧水は森で生まれ、川を通じて栄養をたくわえ、海に流れ込みます。森や川が豊かでないと、海も豊かにならず、魚たちも育ちません。「森・川・海」のつながりの大切さを学び、実践する場として、大山隠岐国立公園内の船上山のふもとにある森林を「おさかなをはぐくむ湧水と海を守る森」と名付け保全活動を行っています。



草刈りを行う様子

鳥取大学 日置教授から山のレクチャーを受ける様子

## ひとりひとりの取り組み



荒川環境学習の様子

ニッスイグループでは2010年より2回/年、全国で事業所周辺の清掃活動「クリーンアップ作戦」を行っています。ポイ捨てごみが川に流れやがて海へ行きつく可能性があること、単なるごみ拾いではなく、ごみの海洋への流出防止を目的としていることを従業員に周知し、事業との関連を明確にしています。

また、NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラムの協力を得て、荒川の環境や生物多様性について学び、河川敷の漂着ごみを拾う清掃活動を通して、課題解決のためにひとりひとりが身近なところからできることは何かを考えるきっかけとしています。

## 養殖のエサの工夫で、海を守る

魚の養殖では、海に設けられた生け簀の中で魚が飼育されますが、その際に魚に与えるエサによって生け簀の周囲の海の環境が悪化する恐れがあります。それを防ぐため、「ドライベレット」と呼ばれる配合飼料が多く使われています。ゆっくりと海底に沈むため、魚が食べる確率が高まり、海底に沈んだエサによる汚染を減らせるメリットがあります。

しかし海面から生け簀にただエサをまくだけでは、どうしてもムダが出てしまいます。それを減らすために、ニッスイは魚が疑似餌を引っ張る習性をもとにAI/IoTの技術を活用して、魚の食欲に応じて自動的にエサを与えるシステムを開発しました。これによってエサのムダを減らすことができました。



魚の食欲に応じてエサを与える「アクアリンガル®」給餌システム